

# よろず支援拠点だより <82>

## 理念を具体的に書き出す一歩から

わかやま新報の読者の皆さま、こんにちは！

和歌山県よろず支援拠点の福山です。いつもは支援事例を中心に紹介していましたが、今回は経営者の皆さんにお役に立つ内容でお知らせしたいと思います。福山は最近、経営指針書に関するセミナーをする機会が多くなっています。そこで、今回は「理念」について書きたいと思います。

皆さんは「経営理念」とか「企業理念」といったものを書いていますか？

それが書いていない経営者が多いんです。

「そんなもん作らんでも経営できるでえ〜！」と聞いた声が聞こえてきそうですね。そう！なくても経営はできます。でも多くの成功している企業が「経営理念」や「ビジョン」を掲げています。それは、明確な目標と具体的な行動計画を紙に書き留めている人は3%程度であり、この3%の人は明記していない人よりも達成する可能性が10倍にもなると言われているからなのです。

なぜ明文化すると実現していくのか…。それは、紙に書くプロセスと毎日それを意識すること

で、自分が進みたい方向性がはっきりし、潜在意識に刷り込まれるからなのです。潜在意識に…とどころが肝です。よく受験生が「東大合格」と机の前に貼っているのと同じです。

「理念」を書く時に最も基本的な問いかけは「なんのために経営を行うのか」です。経営者が経営理念について語るべき、そこには経営者自身の価値観が現れます。理念は経営者の生き方を表したものだと思えます。美辞麗句を並べてもうまくいかない。心の中からにじみ出た言葉でなければならぬと思います。

立派な「経営理念」を書くこととする前に「良

い経営者になろう！』『社員さんを幸せにしよう！』と書いて、それを毎日眺めるとその気になってくる。これだけでもいいんじゃないでしょうか？ まず一歩進めることから始めてみませんか？

和歌山県よろず支援拠点  
和歌山市本町二丁目1番地  
フォルテワジマ6階  
URL <http://yorozu.yarukiouendan.or.jp/>  
TEL 073・433・3100

